

# 日本中東学会ニューズレター

**JAMES**  
NEWSLETTER



**No. 175**  
2024/12/28

## 目次

|   |    |
|---|----|
| 理事会報告 .....                               | 2  |
| 日本中東学会第 41 回年次大会の研究発表と企画セッションの募集について..... | 2  |
| 第 30 回公開講演会報告.....                        | 4  |
| 『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告 .....          | 7  |
| 寄贈図書.....                                 | 8  |
| 会員の異動.....                                | 9  |
| 連絡先をご存じないですか .....                        | 9  |
| 事務局より .....                               | 10 |

## 理事会報告

【メール審議（2024年10月5日～2024年12月18日）

1. 2024年10月9日 新入会員申請について  
1名から新入会員申請があり、メールで稟議の結果、10月16日に申請内容を承認した
2. 2024年10月14日 第21期評議員・理事選挙について  
評議員・理事選挙の委託費について、メールで稟議の結果、10月17日に承認した
3. 2024年10月16日 選挙管理委員の選任について  
選挙管理委員の選任について、メールでの稟議の結果、10月22日に承認した
4. 2024年10月19日 中東学会公開講演会におけるポスター展示の経費について  
中東学会公開講演会におけるポスター展示の経費、メールで稟議の結果、10月20日に承認した
5. 2024年11月8日 新入会員申請について  
2名から新入会員申請があり、メールで稟議の結果、11月15日に申請内容を承認した
6. 2024年11月15日 会費特例申請について  
1名から会費特例申請があり、メールで稟議の結果、11月20日に申請内容を承認した

(熊倉和歌子 ニュースレター・書記担当理事)

### 日本中東学会第41回年次大会の研究発表と企画セッションの募集について

2025年度の日本中東学会年次大会は、北海道大学が担当します。例年と同じく、大会一日目に公開講演会と総会を、二日目に研究発表（企画セッション含む）を行います。会場は、2日とも北海道大学札幌キャンパスです。大会一日目はハイフレックス方式（対面・オンライン併用）、二日目は対面方式を予定しています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

#### ◆開催日

2025年5月17日（土）：公開講演会（ハイフレックス）、総会（ハイフレックス）、懇親会  
2025年5月18日（日）：研究発表・企画セッション

#### ◆開催場所

北海道大学札幌キャンパス（北海道札幌市北区）

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/campus/campusmap/>

#### ◆実行委員会

委員長：佐藤健太郎

事務局長：末森晴賀

委員：荒井悠太、諫早庸一、岩坂将充、今野毅

#### ◆応募要項

研究発表と企画セッションの応募要領は、以下のとおりです。発表をお考えの方は、どうぞ奮ってご応募願います。応募の締め切りは、2025年1月20日（月）です。採否につきましては実行委員会での決定後、後日改めてご連絡いたします。

##### 1. 研究発表・企画セッションの応募

研究発表は対面のみで行います。発表希望者は、2025年1月20日（月）までに応募フォームからご応募ください。

同一の報告者による発表は、研究発表・企画セッションのいずれか1つのみで受け付けます（重複発表は不可）。

発表者（共著者や企画セッションの責任者・司会者を含む）は、日本中東学会年会費（2024年度分）を納入済みであることが条件となっています。未納の方は応募前に納入してください。

応募フォームのリンクおよび記入項目は以下のとおりです（詳しくはフォーム内の注意事項をご覧ください）。

※応募フォームリンク：

<https://forms.gle/4dTKapSxdemxEgRD7>

（正しく登録が完了すると、フォームから自動でメールが応募者宛に届きます）

※研究発表の記入項目

- ①発表者氏名（漢字もしくはカナ表記）
- ②氏名のフリガナ
- ③氏名のローマ字表記（姓名順）
- ④所属
- ⑤発表タイトル（仮題も可）
- ⑥発表要旨（日本語400字程度もしくは英語200 words程度）

※企画セッションの記入項目

- ①企画責任者氏名（漢字もしくはカナ表記）
- ②氏名のフリガナ
- ③氏名のローマ字表記（姓名順）
- ④所属

- ⑤企画セッションのタイトル（仮題も可）
- ⑥企画セッションの主旨（日本語 400 字程度もしくは英語 200 words 程度）
- ⑦参加者一覧
- ⑧各発表者の発表要旨（それぞれ日本語 400 字程度もしくは英語 200 words 程度）

## 2. 託児所・託児サービス

大会期間中の託児所設置、および託児サービス利用に対する費用補助を予定しています。詳細は、おっってお知らせいたします。

## 3. 宿泊について

札幌市内には多数の宿泊施設がありますが、近年、混雑していて予約がとりづらいことがあります。早めの予約をおすすめします。

なお、大会実行委員会では宿泊の斡旋等は行っておりません。

## ◆連絡先

日本中東学会第 41 回年次大会実行委員会事務局  
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目  
北海道大学大学院文学研究院・末森晴賀研究室  
E-mail : james2025hokkaido@let.hokudai.ac.jp

(佐藤健太郎 大会実行委員会委員長)

## 第 30 回公開講演会報告

日本中東学会第 30 回公開講演会「学校教育と中東・イスラームのいま」  
同時開催「パレスチナポスター展」

日時：2024 年 11 月 24 日（日）13:00～16:00  
会場：信州大学長野（教育）キャンパス図書館 2 階講義室

講演者：荒井正剛（東京学芸大学）、小川幸司（長野県伊那弥生ヶ丘高等学校）  
コメンテーター：久志本裕子（上智大学）、江川ひかり（明治大学）  
司会：野口舞子（信州大学）、開会の挨拶：保坂修司（会長）  
パレスチナポスター展企画協力：長沢美抄子  
主催：日本中東学会 共催：信州大学教育学部社会科教育コース

## 【開催報告】

2025年11月24日、信州大学教育学部社会科講座との共催で、第30回公開講演会「学校教育と中東・イスラームのいま」が開催された。コロナ以後、公開講演会はオンラインや対面・オンライン併用のハイブリッド方式で実施されていたが、今回は久しぶりに対面のみでの実施となった。

2023年10月に始まったイスラエルのガザ侵攻はいまだ収束せず、現代世界における中東地域の重要性を改めて浮き彫りにした。他方日本では、大勢のムスリム人口を擁するアジア諸国の経済成長に伴い、ムスリム旅行者を街中で見かけることも多くなった。日本に定住するムスリムの数も増え、多文化共生社会の実現に向けた取り組みは不可欠となっている。このような社会情勢のなか、中東やイスラームに関する教育の重要性は一層高まっている。折しも、2022年から「歴史総合」や「地理総合」が必修化されるなど、高等学校の学習内容も大きく変わってきている。こうした教育の変化の中で、中東やイスラームについていま学校でどのように教えていくべきだろうか。信州大学教育学部という学校教育の現場に近い場所で、中高の教員や教員を志す学生たち、さらに一般市民とともに現状と課題について知り、議論する場を学会として提供したい、というのが、今回の公開講演会の趣旨であった。

本講演会については、信濃毎日新聞での記事掲載、長野県教育委員会や信州イスラーム研究会などの団体への案内、信州大学教員かつ本学会会員の野口舞子氏のラジオ出演などを通じて広く広報がなされた。その成果もあり、当日の参加者は73人と、地方開催の公開講演会としては稀に見る賑わいを見せた。板垣雄三・元中東学会会長の姿も会場に見られたのは嬉しいことであった。

第一講演者の荒井正剛氏は、『イスラーム／ムスリムをどう教えるか』（明石書店、2020年）の共編著者である。荒井氏は「地理教育における中東・イスラームの取り扱い：現状と課題、私の実践」というタイトルで講演された。まず、講義内で実施した大学生の中東・イスラームについての知識とイメージについてのアンケート結果から、彼らの持つ中東へのイメージの悪さと、中東やイスラームについて正しい知識や関心を持っていることがかえって否定的なイメージを抱く傾向につながっていることを指摘した。

次いで、小学校、中学校、高校の社会科、地理の教科書で中東・イスラームがどのように扱われているのか、教科書のページをスライドに投影しながら順に紹介・解説をした。小学校6年生の社会科の教科書ではサウジアラビアが取り上げられ、イスラームに基づく食事の禁忌や男女の区別・女性への制限など、サウジアラビア特有のイスラームの義務の厳格性が各所で記載されている。これらはたしかに「事実」ではあるが、否定的イメージやステレオタイプを生む恐れがある。中学地理の教科書では、生活と宗教との関わり、「先進的な都市」ドバイ、石油資源への依存、地域の政治的な不安定さなどが取り上げられるが、学習指導要領上この単元に充てられる時間数が少なく、総合的に捉えるような授業ができないことが問題点として挙げられた。高校の地理総合では、湾岸諸国の豊かな生活や女性の社会進出などの生活の変化とともに、イスラーム回帰や地域紛争、経済格差などが取り上げられる。地域の民族・言語の多様性に言及される一方、多民族共存についてはあ

まり触れないなどの点が課題としてあげられた。一方イギリスの地理教科書は、宗教についてはほとんど扱わず、地域内の格差に注目し、難民の語りを引きつつ、シリア内戦について深く考えさせる内容であった。

そのうえで、荒井氏自身が中学地理で中東とムスリムについてどのように教えていたかを語り、最後に、地理学・地理教育の意義として、対象地域の特殊性のみならず共通性についても知ること、自分たちの「常識」が絶対的なものではないと気付かせることを挙げ、表面的な異質性の強調は理解の妨げになりうるとした。そのうえで、世界史を本格的に学んでいない中学の段階では、紛争についてはあまり触れない方が良く、高校では地理・世界史・倫理・政治経済等の科目間の連携・調整が必要であると、現時点での課題を整理した。

第二講演者の小川幸司氏は、中央教育審議会の社会・地理歴史・公民ワーキンググループ専門委員もつとめ、高校世界史教育の第一人者として名高い。講演タイトルは「高校生がパレスチナ問題の歴史叙述を検討する」で、ガザ紛争の泥沼化という現在の中東情勢を強く意識されたテーマであった。

小川氏はまず、近年の高校歴史教育改革の背景と目的から説き起こし、その中で「歴史総合」科目の新設が実現したこと、しかしこの教科書に対す教員たちの取り組みからは、多くの地域・時代の情報が盛り込まれている「教科書の過積載」問題や、「主体的で対話的な深い学び」の実現に必ずしもつながっていないという声があがってきているという。こうした問題に対して、小川氏がどのような方針で授業を組み立てているのか、授業実践を披露した。生徒自身による教科書の読解、電子黒板を使用した教科書への書き込み、資料の配布と課題の提示といった授業の流れの中で、教科書の内容を妄信せず、それを批判的に検討して生徒自身が自分なりの歴史叙述をつくっていくという、歴史の授業の目的が示される。内容は、非常に具体的であった。授業例として、パレスチナ問題の発端となる20世紀初めのイギリス多重外交と、1993年のオスロ合意が取り上げられた。前者では、フサイン・マクマホン協定、サイクス・ピコ協定、バルフォア宣言について資料を提示したうえで、生徒たちに「イギリスの三枚舌外交を不正義の度合いの高い順に並べ、理由を考察しよう」という課題を出した。後者では、パレスチナ人やイスラエル人の語りなどを資料に「ガザ戦争を含むパレスチナ問題が「真の和平」に至るためには、どのような課題が解決される必要があると考えますか。そのために自分はどのようなことができると考えますか」という課題が出された。これらの授業では、全体の因果関係を考えさせることに加え、「民族自決」自体を批判的に理解しながら歴史を分析することで、正義の多面的な問い直しに結びつけることが目指された。全体を通じて内容は非常に実践的かつ具体的であり、会場の現職教員や教員志望の学生を強く意識したものであった。

10分の休憩の後、二人のコメンテーターによるコメントとパネルディスカッション、会場との質疑応答が行われた。久志本裕子氏からは、イスラームについて教える際の問題点として、①イスラームの「規則」を前面に出すことの問題、②ムスリムを「宗教」を中心に理解しようとする問題、③イスラームを「厳格」VS「穏健」という軸で語る問題、④「われわれ」対「他者としてのムスリム」という枠組みの問題、の四つがあ

るとの問題提起がなされた。江川ひかり氏からは、小川氏の講演に対する応答として、「民族」や「民族自決」を取り上げる際、国民国家が暗黙の前提となっている事態をほぐすための補助線として、多民族多言語国家という軸の提示がなされた。事例として、オスマン帝国の多民族・多言語・多宗教と、それが帝国崩壊とともに失われることなどが説明された。会場からは、このような手の込んだ授業が進学校でも可能かどうかといった疑問や、生徒同士の話し合いを「論破ゲーム」や「いろいろな意見があるよね」にしないための工夫にはどのようなものがあるか、といった質問が寄せられた。

公開講演会にはパレスチナポスター展が同時開催され、講演会の前後には前室に掲示された二十数点のポスターに多くの聴衆が見入った。講演会が始まる前には、企画者の長沢美抄子さんによるポスターの解説も行われた。

今回の公開講演会には、現役の教員や教育学部の学生が多く参加してくださった。聴衆の皆様によって、中東学会が社会に対してできる貢献の一つに、中東の教え方、中東の捉え方の発信があることを再認識した。精力的に広報にご尽力くださった信州大学教育学部社会科講座に、記して感謝を表したい。なお、本講演会については、信濃毎日新聞に後日、2件の記事が掲載された。

(五十嵐大介・嶺崎寛子 企画担当理事)

## 『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

### 1. 今年度発行号について

40-2号は、来年2〜3月頃の刊行を目指し、現在鋭意編集作業を進めています。

### 2. 来年度発行号について【リマインダー】

前号のニューズレターやメーリングリストでお知らせしましたように、来年度第1号の投稿締切を以下のとおり約5週間、延長しております。

【41-1号】延長後の投稿締切：2025年1月8日（水）

みなさまの多様な研究成果をぜひ御投稿ください。欧文投稿も大歓迎です。

AJAMESには論文・研究ノート・書評論文・資料紹介・研究動向・書評・博士論文要旨（英語）など、さまざまなジャンルがあります。また例年どおり、欧文特集企画も募集しております。企画をお持ちの方は、直接御投稿いただくか、編集委員長まで御相談ください。どうぞよろしく願いいたします。

なお、投稿規程・原稿執筆要領の最新版は、AJAMES最新号のほか、学会サイトにも掲載されておりますので、投稿前にそれらを御確認ください。投稿された原稿が執筆要領にしたがっていない場合、修正・再提出をお願いすることがありますので、この点とくに御留意ください。

### 3. 編集委員の交代について

今般（2024年11月）、諸事情により年度途中で編集委員の交代がありましたので、以下のとおりお知らせいたします。

（退任）山崎和美氏（横浜市立大学）

（就任）杉山隆一氏（京都橘大学）

### 4. 博士論文要旨（英語）について

*AJAMES* では、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。最近博士論文を提出された会員の方は、ぜひ御投稿ください。

5. *AJAMES* のバックナンバーは、科学技術振興機構の電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage 上で公開しています。刊行後、1年を経た論文（現在、39-1号掲載分まで）はこちらで閲覧できますので、御活用ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ajames/-char/ja>

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10

大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟 841号室 福田義昭研究室気付

『日本中東学会年報』編集委員会

E-mail: [ajames-editor@james1985.org](mailto:ajames-editor@james1985.org)

（福田義昭 *AJAMES* 編集委員長）

## 寄贈図書

### 【単行本】

大川玲子『[増補] 聖典クルアーンの思想——イスラームの世界観』ちくま文芸文庫、2024年。

### 【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

『アラブ・イスラム研究』No. 22、関西アラブ研究会、2024年8月

『サダーカ——日本サウディアラビア協会報』No. 245、日本サウディアラビア協会、2024年9月

『季刊アラブ』No. 189、日本アラブ協会、2024年10月



## 会員の異動

### 【新入会員】

河野 奈津美  
工藤 幹太  
クレシ 明留  
永田 真子  
原田 有一朗

### 【所属先変更】

辻 大地 東京都立大学

(小澤一郎 事務局長)

### 連絡先をご存じないですか

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため、学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。連絡先をご存じの方は、学会事務局までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただければ幸いです。

イブラヒム・ワリード・ファルーク 岡部 友樹 北川 明 黒宮 貴義  
後藤 信介 住吉 大樹 高安 海翔 ターリク フセイン ハカミー  
築地 孝治 ナスル・ゴラムレザ ババアリ 梓晴 林田 花枝  
平川 大地 ファトヒー モハンマド 藤井 菜津子 藤本 あずさ  
三尾 真琴 三橋 咲歩 ヤズィード ナーセル 横田 吉昭  
Abuhajir Rehab A. Abhu-Hajjar Iyas Salim HOSNIEH Elham Layla Saleh  
Mohamad Haidar Reda Teeba M. Mohammed Abdulati

(小澤一郎 事務局長)

## 事務局より

事務局の所在する京都は、前回のニューズレター公開時にはまだ耐えがたいほど暑かったのが、2か月ほどの間に秋を通り越して真冬になっており、昨今の気候変動の影響を文字通り肌で感じております。この間、11月24日には信州大学で公開講演会が、12月7日・8日には同志社大学でアジア中東学会連合（AFMA）の大会が、それぞれ開催されました。両イベントとも大過なく開催することができました。両イベントをご準備された皆様、そして参加者の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

早いもので、2024年もあと2週間程度となりました。会員の皆様にはどうぞよいお年をお迎えください。そして、来年も当会の活動へのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

（小澤一郎 事務局長）

### 日本中東学会ニューズレター 第175号

発行日 2024年12月28日

発行所 日本中東学会事務局

#### 日本中東学会事務局

〒603-8577

京都府京都市北区等持院北町56-1

立命館大学文学部 小澤一郎研究室内

E-mail: [james@james1985.org](mailto:james@james1985.org)

<https://www.james1985.org/>

郵便振替口座：00140-0-161096

（日本中東学会）

ゆうちょ銀行口座：〇一九店（当）0161096

（ニホンチュウトウガッカイ）